

72巻3号

2017年7月1日

# YAA 天文会報

(7~9月号)

773号

〒226-0016

横浜市緑区霧が丘 4-1-7-402

正木 仁 方

Mail: masaki@e08.itscom.net

HP: <http://home.n03.itscom.net/yaa/index.html>

横浜天文研究会



M8 M20 猫の手

撮影：山形幹夫

---

## 観望ガイド

正本

夏至が過ぎ、一年の折り返し点となりました。梅雨入り後、あまり雨が降らず、今年は夏至前後の日の長さを十分に実感することができました。

7月は梅雨明けがいつになるのか気になりますが、25日の夕方に水星食が起きます。月齢は2.0、全国で月の向こう側から出てくる様子を見ることができます。また関東や沖縄地方では月に隠される潜入（東京：18時56分）も日没後（東京：18時52分）になりますが、日没直後で空がまだ明るいため見るのは難しいと思います。出現は東京で19時49分ですが、月の入りが20時11分なので、かなり地平線に近いところになります。西側の見通しが良い場所を選んで見てください。その水星は30日に東方最大離角となり光度は+0.4等、日没時の高度は約15°ほどです。

流星群は、みずがめ座 $\delta$ 南群、やぎ座 $\alpha$ 群が30日に極大となります。月は上弦ですから夜半後の条件は良いです。お隣どうしの星座なので放射点も近いのですが、みずがめ座群に比べて、やぎ座群の流星はスピードが遅く明るい流星が多く、火球も比較的良くみられるので区別はつけやすいと思います。

8月といたら、やはりペルセウス座流星群ですが、今年は13日午前4時ごろに極大となります。日本国内での見ごろは、12日の夜半頃から13日の明け方となります。時間的には最高なのですが、しかし残念なことに今年は下弦前の明るい月が出ているため、流星の出現数は例年より少なくなりそうです。流星は空の特定の場所に出るわけではありませんから、少しでも月明かりに邪魔されにくい方角を見ながら観察してください。

また、8日明け方の満月時には部分月食が起きます。開始時刻：02時22分、食の最大時刻：03時20分、終了時刻：04時18分となっており、食が終わる前に薄明が始まります。

9月は、5日に海王星が衝となります。明るさは+7.8等、もちろん裸眼では見えませんが、双眼鏡なら見える明るさです。日を空けて観察し移動を確認します。写真に撮って位置の変化をみる方法もあります。

流星群は、22日に極大となるぎょしゃ座 $\beta$ 群がありますが、出現数はひじょうに少ないです。

---

### 【7月例会】

7月8日（土）18時00分～19時30分

東戸塚地区センター2F 小会議室

---

## パソコン購入しました

山形幹夫

以前から懸案であったパソコンの能力。ではどれ位のスペックのPCが必要かというイメージ分かりません。ということで予算が許す限りの商品を購入しました。価格はタカハシのε-130DやFSQ-ED85といった鏡筒一式が購入できる程度のもので、これらを持っていない私としては望遠鏡よりPCが優先する時代か、としみじみ思っています。スペックはノートPC、15.6インチモニター。ノートPCであるが新技術によりデスクトップ機用のCPU CORE i7を装備、メモリー32GB、グラフィックスはNVIDIA® GeForce® GTX™ 950Mを搭載していて、CAD用途の使用も視野に入っていると言う。OSはWin10 64bit Home、ドライブはSSD512GB+HDD1TB。

ではこのスペックでどれ位の画像処理ができるようになったかと言うと、ステライメージ(SI)8を使用して202MBのTIF画像を30枚開きコンポジットが可能。これ以上何枚開けるかは分かりません。30枚のコンポジット(加算平均、人工衛星を消すためにσクリッピングで実施)が風呂に入ってほぼ終わるという処理速度。コンポジットの前にはRAW画像のTIF変換やフラット補正を行います、これら全てで30枚の処理が1時間強と言ったところでしょうか。ご参考まで。今までのPCはメモリー4GBのWin7 32bit機で、SI7で同TIF画像だと数枚程度しか開けない。

これまでより格段に処理できるようになりましたが、望遠鏡は?ということで見かねた友人がε-180EDを貸してくれました。表紙の写真はそれによるものです。30枚処理した画像はというと、仕上がりがイマイチでして来年の今頃までにはなんとかしたいと考えています。さそり座頭部でも人工衛星写りまくりでした。

### <表紙写真>

夏の銀河の中に位置するM8干潟星雲とそこから伸びる猫の手、M20三裂星雲を捉えたものです。少し眠い感じの仕上がりになっていることが今後の課題です。昨年撮影したJEPG画像処理より猫の手の部分が良く見えるようになった。

ニコンFマウントは歴史も長く実績・信頼性があることは確かです。しかし現在のF値が明るい光学系に装着した場合、視野周辺でマウントやミラーボックスによる光線切れがあり、特にε180EDはフラット補正が難しい。画像はフルサイズとDXサイズの間位にトリミングしています。

【表紙写真撮影データ】撮影日2017年5月28日 タカハシε-180ED F2.8 f=500mm  
Nikon D810A ISO3200 露出70秒 14bitRAW→TIF変換×16枚コンポジット Flat×6枚  
トリミング処理有り 撮影地:長野県入笠山

# 太陽黒点

観測者：藤森 賢一（諏訪） 機材：8cm屈X67 15cm投影

日	2016年3月					2017年4月					2017年5月				
	N		S		全	N		S		全	N		S		全
	g	f	g	f	R	g	f	g	f	R	g	f	g	f	R
1	2	16	0	0	36	-	-	-	-	曇	0	0	1	2	12
2	-	-	-	-	曇	-	-	-	-	欠測	0	0	1	1	11
3	2	4	0	0	24	2	19	1	25	74	1	5	0	0	15
4	0	0	0	0	0	3	11	2	36	97	1	5	0	0	15
5	0	0	0	0	0	0	0	2	22	42	1	3	0	0	13
6	-	-	-	-	曇	-	-	-	-	雲雨	-	-	-	-	雨
7	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇	-	-	-	-	曇
8	0	0	0	0	0	-	-	-	-	雲雨	1	2	0	0	12
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇
10	0	0	0	0	0	1	2	0	0	12	-	-	-	-	曇
11	-	-	-	-	曇	-	-	-	-	雨	0	0	0	0	0
12	0	0	0	0	0	1	2	0	0	12	-	-	-	-	曇
13	-	-	-	-	曇	1	2	0	0	12	-	-	-	-	雨
14	0	0	0	0	0	1	2	0	0	12	0	0	0	0	0
15	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇	-	-	-	-	曇
16	-	-	-	-	欠測	0	0	0	0	0	1	1	0	0	11
17	-	-	-	-	欠測	0	0	0	0	0	-	-	-	-	曇
18	-	-	-	-	欠測	0	0	0	0	0	1	2	0	0	12
19	0	0	0	0	0	1	5	0	0	15	1	2	1	4	26
20	0	0	0	0	0	1	9	0	0	19	1	2	1	2	24
21	-	-	-	-	曇	-	-	-	-	曇	1	2	1	2	24
22	1	2	0	0	12	1	6	1	3	29	2	6	1	3	39
23	1	2	0	0	12	1	3	1	3	26	2	4	1	4	38
24	1	2	0	0	12	2	11	1	4	45	-	-	-	-	曇
25	1	2	0	0	12	2	7	1	3	40	-	-	-	-	雨
26	-	-	-	-	曇	-	-	-	-	曇	-	-	-	-	曇
27	-	-	-	-	曇雪	1	4	1	2	26	1	18	0	0	28
28	-	-	-	-	曇	1	3	1	2	25	1	11	0	0	21
29	1	7	1	10	37	1	2	1	2	24	1	5	0	0	15
30	1	7	1	17	44	1	2	1	2	24	0	0	0	0	0
31	-	-	-	-	雨						0	0	0	0	0
平均	7.8		2.5		9.9	14.3		11.1		25.4	11.4		4.4		15.8

---

## 日月星の伝承を訪ねて (52)

横山好廣

○2015年10月5日

神奈川県足柄上郡開成町岡野 ①

この日は、富士山を信仰する富士講で建立した北辰妙(明)見星碑を訪ねて開成町の岡野地区に入った。残念ながら目指す石碑を拝覧することが出来なかったが、道を尋ねたN家で色々話を伺うことが出来たことは幸運であった。

話者は、N家の当時88歳(昭和2年生)になる女性である。

### ●月見について

「お月見は女のまつり」と言われ、必ずやるものだと子どもの頃から、母親に教えられて育った。女性は毎月の生理やトウツキのお産などと「月」に縁が深いから、お月見は「女のまつり」というのだと説明してくれた。(月は女性を守り、子孫繁栄をもたらすという思いが流れているように感じた。だから、月を祀るのであろう。逆の発想ではないような気がする。)

そして、以下の習俗からは、月を丁重に祀り、共食することの伝承を窺い知ることが出来ると思う。

- ・お供え物は、縁側に飾り、団子は三方に十五夜のときは15個、十三夜のとときは13個積み重ねた。
- ・片月見をしてはいけない。
- ・ススキは、月見専用の酒徳利に挿した。この徳利は他に使うことはない。(徳利の形を図示して、首長の白鳥徳利の形に似ていることを確認出来た)
- ・お神酒一本、大きめのロウソク一本も供えて、ロウソクの灯っている間中、月見をした。(月見専用の徳利のことと併せて、月を祀る形が色濃く、お月見は素朴な信仰心が育まれる場であった。先人の知恵を感じる。)
- ・お月様にお供えするものは、その頃に収穫できるものでよかった。  
里芋・薩摩芋はきれいに洗って、生のままで供えた。  
豆腐も供えた。豆腐は切らずに四角のまま、器は特に決まっていなかった。  
翌日のお味噌汁に、豆腐や薩摩芋を入れた。(共食の一形態か)  
柿や豆なども供えた。(ここ岡野地区は富有柿の名産地)

### ●ロクヤさんについて

何月のことか憶えていないが、26日には老人達を公会堂に招いてご馳走をした。大分前に廃れてしまい、今では「ロクヤさん」のことを誰も知らない。敬老会のようなものであった。(酒匂川の水難犠牲者を吊う行事「ロクヤさん」や、所謂、「二十六夜待」との関連は不明)

(この稿、つづく)

# 天象

相原 榮

## 7月

水星: 夕方の西天低空 中旬は観望好期  $-1.2 \sim +0.5$ 等 ふたご→かに→しし座  
金星: 明け方の東天で高度を上げる 観望好期  $-4.2 \sim -4.0$ 等 おうし→ふたご座  
火星: 太陽方向  $+1.7$ 等 ふたご→かに座  
木星: 夕方南中し夜半前に沈む  $-2.1 \sim -1.9$ 等 おとめ座  
土星: 夜半過ぎに沈む 開いた環を一望 観望好期  $+0.0 \sim +0.1$ 等 へびつかい座

1日 09h51m 半月(上弦) 宵の南西天で月と木星の接近	17日 04h26m 半月(下弦)
7日 06h51m 小暑	23日 00h15m 大暑 18h46m 新月
9日 13h07m 満月	28日 みずがめ座 $\delta$ 流星群が極大の頃
13日 明け方の東天で金星とヒヤデス星団 の接近	30日 やぎ座 $\alpha$ 流星群が極大の頃
	31日 00h23m 半月(上弦)

## 8月

水星: 夕の西天低空 月末は明け方東天  $+0.5 \sim +3.8 \sim +3.1$ 等 しし→ろくぶんぎ→しし座  
金星: 明け方の東天で高度を下げる 観望好期  $-4.0$ 等 ふたご→かに座  
火星: 明け方の東天でゆっくり高度を上げる  $+1.7 \sim +1.8$ 等 かに→しし座  
木星: 宵の西天で輝く 21時頃沈む  $-1.9 \sim -1.7$ 等 おとめ座  
土星: 宵に南中夜半に沈む 観望好期  $+0.1 \sim +0.2$ 等 へびつかい座

3日 宵の南天で月と土星の接近	19日 明け方の東天で月と金星の接近
7日 16h40m 立秋	22日 03h30m 新月(アメリカで皆既日食)
8日 03h11m 満月	23日 07h20m 処暑
12日 22h ペルセウス座流星群が極大の頃	25日 夕方の西天で月と木星の接近
15日 10h15m 半月(下弦)	29日 17h13m 半月(上弦)
18日 はくちょう座 $\kappa$ 流星群が極大の頃	30日 宵の南西天で月と土星の接近

## 9月

水星: 明け方の東天で高度を上げる 中旬は観望好期  $+3.1 \sim -1.4$ 等 しし→おとめ座  
金星: 明け方の東天で高度を下げる 観望好期  $-4.0 \sim -3.9$ 等 かに→しし座  
火星: 明け方の東天低空  $+1.8$ 等 しし座  
木星: 夕方の西天 19時頃沈む  $-1.7$ 等 おとめ座  
土星: 夕方南中 夜半前に沈む  $+0.2 \sim +0.3$ 等 へびつかい座

6日 16h03m 満月	19日 明け方の東天低空で月・水星・火星 の大接近
7日 19h39m 白露	20日 14h30m 新月
13日 15h25m 半月(下弦)	23日 05h02m 秋分
17日 明け方の東天で水星と火星の大接近	28日 11h54m 半月(上弦)
18日 明け方の東天で月と金星の接近	